

繊維技術ロードマップ策定検討会について

2021年12月

経済産業省 製造産業局 生活製品課

1. 本検討会の趣旨

- ・ 我が国の繊維産業は、衣料用の繊維素材として高機能化、高性能化等の技術を蓄積し、これらの特長を活かし、その用途を生活資材、産業資材へ展開してきた。今般の新型コロナウイルスの感染拡大では、マスクや医療用ガウン等の衛生・医療分野へ貢献するなど、多様な用途での繊維技術の活用の可能性が改めて示された。
- ・ 我が国は、2050年カーボンニュートラルを目指すこととしており、その達成のためには産学官が一体となって取り組んでいく必要がある。また、サステナビリティやデジタル化の動きが産業構造に影響をもたらしつつあり、こうした変革への速やかな対応が急務となっている。
- ・ 未来の産業につながる繊維技術の創出、繊維産業の国際的な競争力維持の観点から、繊維技術の戦略や事業化への工程を政策として示すべきとの指摘もある。
- ・ こうした状況を踏まえ、繊維産業の技術開発及びイノベーションを促進するため、手法や戦略、事業化への工程等について議論・検討する場として、本検討会を設置する。

2. 本検討会の進め方

- ・ 月1回程度開催し、年度内を目途にとりまとめ予定。
- ・ また、検討結果については、産業構造審議会製造分科会繊維産業小委員会の議論にも反映。

3. 検討課題

- ・ 繊維産業における今後の技術開発について、以下の課題の戦略や工程等を検討・整理し、2030年を目標としたロードマップを示す。

<新たな繊維技術・イノベーションの創出>

- 新製品、新市場の創出につながる繊維製品・部材開発のための方法。

<繊維技術の事業化、用途拡大>

- これまで培ってきた繊維製造・加工の様々な高い技術を事業に結びつける方法、繊維の用途拡大を図る方法。

<産学官・異業種との共同研究・連携の促進>

- 研究開発リソースを最適に組み合わせた研究開発が促進されるよう大学や公的研究機関の情報を整理。

<産地の技術開発支援>

- 地域資源を活用した新製品開発や技術開発が円滑に行われるよう、必要となる情報や技術を共有、補完できる地域ネットワークを強化するための方法。

<サステナビリティへの対応>

- カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーを念頭に置いた製造行程・製品について、実現すべき技術開発。

4. 検討会委員

- | | |
|-------|---|
| 井上 真理 | 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科教授 |
| 牛島 洋史 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所人間拡張研究センター副研究センター長 |
| 小野 雄平 | 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構技術戦略研究センター ナノテクノロジー・材料ユニット研究員 |
| 鞠谷 雄士 | 東京工業大学 物質理工学院特任教授 |
| 中林 亮 | 日本化学繊維協会 技術委員会委員長 |
| 藤本 辰雄 | 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構技術戦略研究センター ナノテクノロジー・材料ユニットユニット長 |
| 森川 英明 | 信州大学 繊維学部長 教授 |